

ΔΥΝΑΜΙΣ

No. 15

1992.10.1

図書館は遠い？

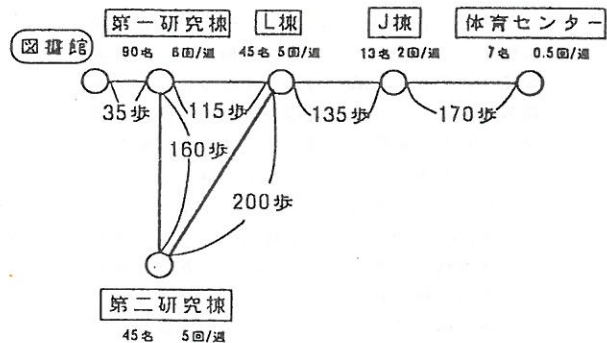
鈴木 敦夫

真夏の暑い日、冬の寒い日、大雨の日、J棟の研究室から図書館へ行くのは、ちょっと決心を要する仕事である。「何で図書館はキャンパスのはずれにあるんだ？」とその度に思う。(実はJ棟がキャンパスのはずれにある。)そこで図書館の場所について最適配置の立場から少し考えてみたい。まずはデータ集めから。

夏休みのある日、キャンパスを歩き回って各研究室と図書館との距離を歩測してみた。それと構内電話番号表で各研究棟にいる先生方の人数を調べ、図書館の人に、各研究棟の先生方が週に大体何回図書館を利用するか尋ねてもらった。それらをまとめたのが右の図である。各研究棟は点で、研究棟を結ぶ道は線分であらわしてある。

この中で図書館がどこにあれば一番便利であるかを考えていくのであるが、その便利さの尺度を二通り考えよう。最適配置の理論でメディアン、センターと呼ばれる概念である。メディアンは先生方が図書館を利用するのに歩く一人あたりの平均の歩数を最小にする場所である。一言で言うと全体の利益をはかるような配置である。今、先生方は一人あたり一週間に平均527歩、図書館に行くのに歩いているが、これを最も少なくするような図書館の場所を探すわけである。センターは一番不便な人の不便な度合いを最小にする場所である。例えば、現在体育センターの先生方が図書館に行くのに一番不便で、455歩かかるのであるが、これを最も少なくするのである。

では、実際に図のメディアンとセンターはどうなるだろうか。計算の詳細は省くが図のメディアンは第一研究棟で先生方は一週間に平均492歩図書館に行くのに歩くことになる。現在の図書館の場所はメディアンに非常に近い。この意味では最適配置なのである。



では次にセンターを求めてみよう。センターはL棟とJ棟の間、L棟から53歩のところであるこのとき一番不便になるのは第二研究棟と体育センターで図書館まで253歩かかることになる。歩数は大部減ったけれども、これは現実的ではない。L棟とJ棟の間には図書館を建てるスペースがない。

そこで、今度は現在の図書館はそのままにして第2の図書館をつくることを考えてみよう。先生方は近い方の図書館を使うと仮定するとメディアンはL棟、センターはJ棟とL棟との間で、J棟から25歩からのところから体育センターまで、どこでもよいことになる。J棟およびJ棟周辺にかなりのスペースがあることを考えるとなかなか魅力的な結論である。

以上、図書館の場所について非常に大雑把な考察をしてみたが、まだまだ考えることはたくさんある。例えば、学生にとってはどこに図書館があるのがよいかという問題もある。また機会があれば考えてみたい。

《文庫訪問》

名古屋シネマテーク資料室

皆さん、「名古屋シネマテーク」を知っていますか？ある程度の映画ファンならその名前ぐらいはご存じでしょう。しかし、今池の酒場街の中の雑居ビルの一角にあるこの映画館へ実際に行ったことのある人はそれほど多くはないでしょう。そしてそこになんと映画資料室があるのです。

今回、デュナミス編集部が文庫訪問に選んだのがその名古屋シネマテーク資料室であり、取材班として指名されたのが、図書館内では映画好きにはいるウラワカ女性Ⅰと中年オジサンのⅡのコンビでありました。

30度を優に越える真夏の一日、ⅠとⅡは汗をふきふき今池へ向かった。

到着後、名古屋シネマテーク代表者の倉本徹さんに案内していただき、早速資料室へ。それは映画館入口のすぐ右隣の部屋であった。一步足を踏み入ると、6～8畳程の部屋に所狭しと書架が並べられ、書籍、雑誌、ビデオテープ等がぎっしり詰めこまれていて息がつまるほど。一通り見学した後、倉本さんにお話を伺った。

まず設立について、学生時代にサークル活動で自分達の観たい映画を自主上映してきた倉本さんが、その経験をもとに多くの人からの資金協力を得て名古屋シネマテークを今の地に開館したのが10年前。商業主義の映画興行のもとで、世に出ないマイナーな作品や忘れられてゆく名画など、一般の映画館では上映されないような映画を上映してゆきたいというのが設立の趣意。最初は赤字続きだったが、その後徐々に熱烈な映画ファンを引きつけて何とか経営も成り立ってきた。しかしその反面、ロードショー的な上映が増えて、自主上映館としての個性が薄れてきた。それを補う意味もあって、映画資料室の開設を考えた。倉本さんの個人的な収書も含めて、昨年3月一杯で完成した蔵書リストでは、書籍が約2000冊、雑誌が約2500冊の蔵書となった。収集の為の参考資料としては、主に「辞典映画の図書」(辻 恭平著、凱風社 1989年発行)を使い、古書店も回って購入したが、やはり絶版になったような本は古書価格も高く、とても全ては揃えられない。有志の人からの寄贈を期待したいとのことだった。

蔵書の内容としては、雑誌のバックナンバーが目玉。『キネマ旬報』1925年以降、『シナリオ』1946年以降、『映画芸術』1946年以降、『映画評論』1937年以降など、戦前のものも含めて各種揃っているが、まだ欠号もあ

り、これも寄贈していただけるものがあればすぐにでも取りに伺う、とのことだった。また雑誌の復刻版もここ10年程の間に刊行されたものを中心に購入されており、『日本映画初期資料集成』(三一書房)(注1)、『映画検閲時報』(不二出版)等が見えた。

利用については、去年から貸出しサービスを始めたとのことで、一般の映画ファンの他にも学生が卒論用の資料を探しに来ることも結構あるそうだ。人数はあまり多くはないが、限られた人々が何度も訪れるといった状態のようである。外部への宣伝は特に行っているわけでもなく、知る人ぞ知る場所といったところだろうか。なお、この資料室では資料の検索ツールとしては蔵書リストがあるだけなので、あとは直接書架上で本を探していくしかない。「利用サービス上で何かお困りの点は？」との質問に対し、「利用者による切り抜き」との答えが即座に返って来た。「貸出しをしないとっているわけではないのに残念です。」と、さすがの倉本さんも苦笑しておられた。

取材中、つい話が資料室のことから映画自体のことへと逸れてしまったり一特にⅡはほとんど同世代の倉本さんに自分の気に入っている映画の話や昔の日活ロマンポルノの話題に熱心でその特集をしてほしいなどと申し入れたり(すでにこの夏にレートショーでロマンポルノの作品群の一部の上映が企画されていた)、また蔵書リストを見ていて自分の興味のある本を見つけて喜んだり(これはⅠ)と、うっかり仕事で来たことを忘れそうになったりもしたが、やはり映画好きの人にとってはこたえられない場所であろうと思った。資料室の閲覧は、窓口でその旨を伝え、身分証明書を提示すれば可能である。映画好きの人もそれほどでない人も、このシネマテークへ足を運び、映画を観るだけでなく資料室も覗いてみて下さい。あなたの人生にとって何か新しい発見があるかもしれませんよ！

(伊與田宜世、山田豊明)

《注1》

「日本映画初期資料集成」(牧野守監修)：活動写真雑誌、活動之世界、活動画報といった大正時代に刊行された雑誌の復刻版が含まれている。

★★★ 名古屋シネマテーク蔵書貸出し規定(抜粋) ★★★

貸出日数：2週間以内

貸出冊数：書籍 5冊以内

雑誌 10冊以内

※書籍+雑誌は10冊以内

貸出料金：

貸出方法	種類	正会員等	鑑賞会員	会員外	企業等
年間貸し(1年間)		無料	2,000円	3,000円	5,000円
1冊貸し	書籍	無料	100円	200円	300円
	雑誌	無料	50円	100円	150円

保証金：

期間	正会員等	鑑賞会員	会員外	企業等
1年間・数次	無料	5,000円	10,000円	20,000円
1回限・単次	無料	3,000円	5,000円	10,000円

※貸出し終了により、その時点で全額返金するものとする。

閲覧規定：

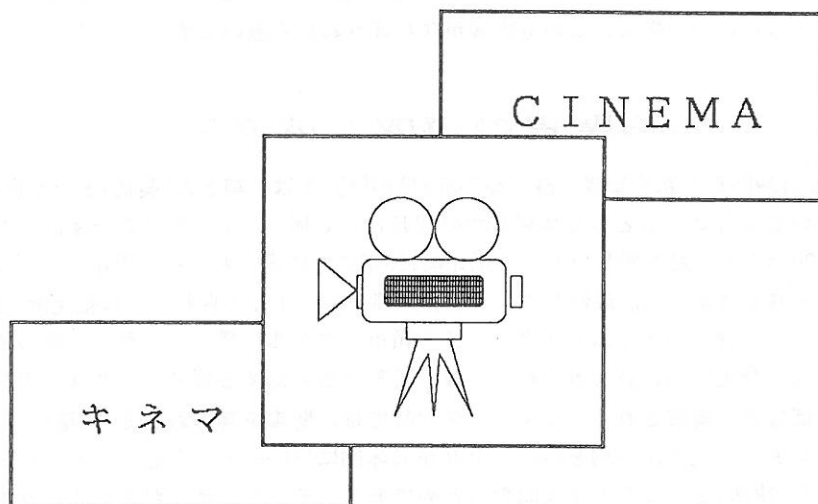
- 1) 身分証明書の提示を必要とする。
- 2) 閲覧場所は、資料室またはロビーとする。
- 3) 資料室への持ち込みは、筆記用具のみ。禁煙・禁飲食厳守。
- 4) 入室/退室の際には、係の者に連絡すること。
- 5) 書籍・雑誌は、元の位置に戻すこと。不明な点は連絡すること。

名古屋シネマテーク：〒464 名古屋市千種区今池1-6-13 今池スタービル

TEL (052)733-3959

【開館時間】 10:00~22:00

【休館日】 月1回休み(不定)



*** 特 集 ***

特集の企画にあたって

本学図書館では、今年7月に「聖書を中心としたキリスト教関係資料展」を開催しました。この展示会を開催するに当たり我々図書館員は、「聖書とは何か？」又、「今日聖書が目前にあるにはどのような経緯があったのか？」を勉強するところから始めました。その成果が先の展示会に示したパネルであり、これを今回の館報に特集として掲載することとしたものです。

なお、今年10月下旬から前回とほぼ同様の企画で再度「キリスト教関係資料展」を開催します。それを見ていただく際の参考にもしていただければ幸いです。

<聖書とは何だろう>

皆さんは、聖書についてどれほどの知識をお持ちでしょうか。聖書の有名な場面や言葉をとぎれとぎれに知ってはいるけれど、聖書の全体像や歴史的事実までは知らないという人がほとんどではないでしょうか。日本では多くの人々が聖書に近づけないでいます。余りにも膨大で難解だし、宗教の聖典ということで近寄りたいたい気になってしまったりするからです。しかし、聖書は、世界の多くの人々に影響を与えています。文学、哲学、音楽、美術は勿論人々の生活様式に至るまで、西欧文化は聖書と共に歩んできたといっても過言ではないでしょう。とすれば、西欧理解のためにも聖書は必読書ということになります。

聖書がいったいどのようなものなのか、そして二千年の歴史の中でどうやって伝えられてきたかということを知るきっかけの一端に、この聖書展がなればうれしく思います。

<旧約聖書の構成と成立>

旧約聖書(OLD TESTAMENT)・新約聖書(NEW TESTAMENT)の「約」とは、神との「契約」という意味です。旧約聖書とよんでいる部分は、もともとユダヤ教の聖典として制定していたものです。最も古い記事は西暦紀元前1100年ごろ、最も新しいもので紀元前150年ごろに書かれ、約一千年という長い期間をかけて改訂改編されてきました。最終的にユダヤ教聖典としてまとめられたのは紀元後118年のことです。皆さんがよくご存じのアダムとイヴ、ノアの箱舟、バベルの塔、モーセの十戒の物語、そしてイスラエル民族の歴史物語、賛美歌や祈りや詩、日常生活に対する賢者のことば、男女の愛の詩、預言者のことばなどで構成されています。ユダヤ教では、聖書を神のおきて(律法)としてとらえています。神とユダヤの人々が契約を結び、それが具体的に「律法」という形で与えられたものとしています。だから「律法」を守ることが人間のつとめであり、そこから救いがあたえられると信じてきました。ユダヤ人は、旧約聖書を神の命令、生活の規範として受けとめています。

＜新約聖書の構成と成立＞

それでは、私達が新約聖書とよんでいる部分は何でしょうか。それは、キリスト教が発生した後に、イエス・キリストをめぐる文書として紀元後50年ごろから、紀元後150年ごろにかけて書かれたものです。ユダヤ教の側では、この新約の部分は全く認めていません。ですから「旧約」・「新約」ということはユダヤ教では使わず、旧約の部分は「トーラー・ナービーム・ケスビーム」とよんでいるようです。キリスト教の側では、旧・新約の両方をあわせて聖典と認めています。つまり、神とユダヤ人が結んだ契約(旧約)はイエス・キリストの出現によって成就し、そしてキリストが新たな契約(新約)をうちたてた、というとらえかたをしているのです。

新約聖書の内容は、イエスの生涯と教えについて4人の弟子がそれぞれ伝えた福音書、教えを広めた使徒の働き物語や手紙、そして、信仰のゆえに迫害されているキリスト者のために書かれたヨハネの黙示録などで構成されています。

＜五書＞

聖書の最初の五つの書は、「五書」(ギリシャ語でペンタテューク)と呼ばれ、「モーセ五書」という名で知られています。又、これらの書は神との契約に従う神の民として生きるのに必要なことが書かれていることから「律法」(ヘブライ語でトーラー)といわれています。

「創世記」には天地万物、人間、イスラエル民族の起源が述べられています。神の全ての行為の頂点は人間の創造です。人間のみが神の姿に作られ、他のものの支配を委ねられたという点で他の被造物と区別されています。それから、イスラエル民族の基礎を築くために召命を与えられたアブラハムとその子孫のイサク、ヤコブ、ヨセフの生涯が語られています。

「出エジプト記」はモーセを中心にイスラエルの民が奴隷とされていたエジプトからいかに脱出したか、またシナイ山での神との契約について述べられています。

これに続く三書ではこの契約によって求められた生き方が記されています。「レビ記」はイスラエルの民が神との正しい関係を保つために与えられた宗教的儀式、礼拝、日常生活に関する律法を収めています。「レビ記」の名は律法を司っていたのがレビ族の祭司たちであったことからきています。

「民数記」はシナイの荒野滞在時代のイスラエル民族の悲しい物語が語られています。「民数記」の名は「民の数を数えること」(人口調査)からとったものです。

「申命記」は、紀元前1260年頃、約束の地カナンへ入る直前に、モアブの草原においてなされたイスラエルの民に対するモーセの数多くの演説から成り立っています。

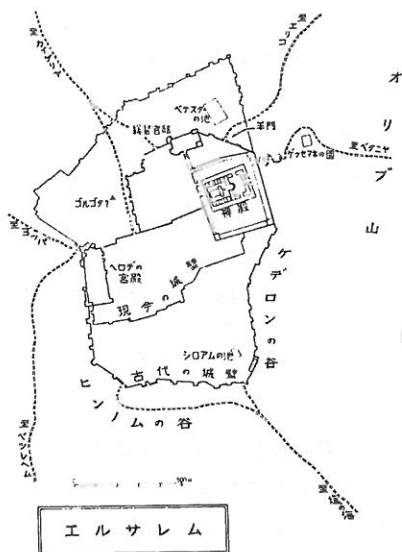


<歴史書>

ヨシュア記からエステル記までのこの部分は、カナン征服から王政の時代、捕囚と帰還の時代の歴史を扱っています。これらは二つのイスラエル史に大別されます。

第一の部分は、モーセの後継者であるヨシュアに導かれたイスラエルの民が、どのようにしてカナンを征服したかを述べた「ヨシュア記」。カナン征服からサウル王が即位するまでのおよそ紀元前1200～1050年までの激動期を扱っている「士師記」。それとは対照的な、平和に満ちた普通の人ルツの生活を描いた「ルツ記」。「サムエル記」は、部族の統合がなされ、サウルとダビデによる中央集権がいかに形成されたかを物語っています。「列王記」にはダビデの死からソロモンの黄金時代、イスラエル、ユダの分裂時代を経て紀元前587年のエルサレム滅亡に至るまでの歴史を見ることができます。

第二のイスラエル史の中心地は、エルサレムとその神殿です。「歴代誌」はダビデとソロモンのもとでの神殿建築と礼拝を述べ、「エズラ記」と「ネヘミヤ記」の両書は捕囚の身となった民のバビロニアからの帰還、破壊された神殿の再建とエルサレム人共同体の形成を描いています。「エステル記」はエステルという女性が、ユダヤ人絶滅をたくらむ陰謀をいかに挫折させたかを物語っています。以上の歴史的な各書の後に知恵文学の諸書が続きます。「ヨブ記」は族長のヨブとその友人との対話形式による壮麗な詩であり、「詩編」は種々の祈りを収めたもので、賛美・感謝・嘆願の詩等から成り立っています。「箴言」は知恵者たちの金言集、「コヘレトの言葉」は人間の生の意義について考えた知恵者の書であり、「雅歌」は男女の愛を主題とした一連の叙情詩です。



<預言書>

旧約聖書の最後の17の書は「預言書」として知られています。これらは16人のユダヤ人の預言者の名がつけられた各書と「哀歌」から成っています。「イザヤ書」、「エレミヤ書」、「エゼキエル書」、「ダニエル書」という4つの「大」預言書の後に、これらより短い12の「小」預言書が続いています。「預言書」の時代はユダヤ国家の最盛期から捕囚の時代を経て、彼らの母国への帰還—紀元前800年～400年頃—に及んでいます。

エジプトにおける奴隷状態から解放されたイスラエルの民は、律法を与えられ、一つの宗教を与えられました。しかし彼らは、常に神の召命と約束を忘れ、律法を無視しました。預言者は、まさに、その国民を神の道へ呼び戻すために神の啓示を受け、神の言葉を語るために選ばれた人々でした。彼らは人々に、神の意志によって起こる出来事、神の裁きと救いについて告知し、悔い改めるよう呼びかけました。

「哀歌」は5つの詩から成り、紀元前587年のエルサレムの陥落と、その後続いた捕囚を悲しむ詩です。これらの詩は、今日でも、毎年7月に、どのようにして神殿は破壊されたかを思い起こして、ユダヤ教の会堂で読み上げられています。

＜旧約聖書統編＞

これらの書は、1世紀末ユダヤ教で聖書の目録を定めるとき受け入れられなかったもので、ユダヤ人の聖書には含まれていませんが、もともとは、紀元前3世紀から紀元1世紀頃までの間に成立したユダヤ教の宗教的文書です。これらはキリスト教によって我々に伝えられたものですが、キリスト教では4世紀頃からこれらについて二つの見解が見られるようになります。すなわち、これらは旧約の他の書に劣るとする見方と、同等とする見方です。カトリック教会では、「エズラ記(ギリシャ語)」、「エズラ記(ラテン語)」、「マナセの祈り」を「アポクリファ」あるいは「外典」と呼び、その他の各書に旧約と同等の価値を付し、「第二正典」と呼んでいます。「新共同訳聖書」では、全体を称して「旧約聖書統編」としています。

＜福音書＞

新約聖書には、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる4つの福音書があります。福音書の名は、その内容がイエス・キリストが宣教した神の国の福音、あるいは救い主イエス・キリストによる救いの音信であることによっています。そして、4つの福音書はそれぞれ特別な主張を持っています。

「マタイによる福音書」は、イエス・キリストのユダヤ教との関係に焦点を合わせ、イエス・キリストがどのようにして旧約聖書を成就したかを記し、教会生活と宣教に関するイエス・キリストの教えを体系的に記しています。「マルコによる福音書」は、教えよりも活動を強調しています。「ルカによる福音書」はイエス・キリストがもたらした救いの祝福を力説しています。「ヨハネによる福音書」は、イエス・キリストを世の救い主として、父なる神によってこの世に遣わされた方として、示しています。最初のマタイ、マルコ、ルカによる福音書は、資料的・内容的に共通の要素が多いので、『共観福音書』と呼ばれています。このように、福音書にはイエス・キリストによって神の国の到来が告げられ、神の力のあらわれとして奇跡が行われ、人間の罪のための贖いとしてイエス・キリスト自身が十字架に死に、さらに死に打ち勝った復活の事実が伝えられているのです。

＜手紙＞

新約聖書中、手紙形式の文書は21あり、約3分の1を占めています。その内容は多様ですが、使徒と彼らの仲間が教えたことを説いています。そして、神についての教えと、生活と行動の指針を伴ったイエス・キリストの福音を結び付け、初代教会の諸問題とその解決の仕方を明らかにしているのです。これらの手紙は、著者によって分類されるのがわかりやすいでしょう。パウロの名で13通、著者不明が1通、ヤコブによって1通、ペテロによって1通、ヨハネによって3通、そしてユダによって1通となっています。パウロの手紙には、『獄中書簡』と呼ばれるパウロが捕らわれの身であることを述べているもの、また、『牧会書簡』と呼ばれる実際の教会のリーダーシップと組織の問題を扱っている手紙が含まれています。そのほかの手紙は、パウロの手紙と比べてあて先がはっきり限定されず一般的であるので、しばしば『公同書簡』と呼ばれていますが、「ヘブル人への手紙」や「ヨハネの手紙二、三」は例外とされています。これら21の手紙は、イエス・キリストを証して、福音書や理解を得させ、また教会と信徒の生活について教えるものとして、極めて重要なものといえるでしょう。

＜黙示録＞

黙示録は聖書のなかで、"黙示文学"と呼ばれるものに分類されます。"黙示文学"とは、人間には直接知ることのできない神の意志や人間の歴史やその苦難の意義を、幻、象徴、隠語などを用いて解明し、未来への確信と現在の勇気を与えようとする意図をもつ、終末論的な文学といえることができます。

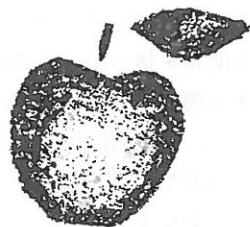
新約聖書の中で、唯一の"黙示文学"書が、「ヨハネの黙示録」です。この書は、信仰のゆえに迫害されているキリスト者のために書かれました。初代のキリスト者たちは、現在の悪の時代と対照的なイエス・キリストの再臨を熱心に待ち望んで生活していましたが、イエス・キリストの死後60年を経てもそれが実現されませんでした。そこで、厳しい迫害にさらされている教会に対して、イエス・キリストの再臨の近きを告げて、希望を抱かせ、慰めと励ましと警告とを与えようとして書かれたのです。「ヨハネの黙示録」は、新約聖書最後の書であり、旧約聖書最初の書である「創世記」に対応して、終末の審判と新しい天地(神の国)の実現とを記したのです。

＜カトリック＞

日本での布教は、1549年フランシスコ・ザビエルが鹿児島に渡来したことにより開始されました。1593年までに約30万人が受洗しました。その多くは、長崎地区の人々であり、1612年には我が国の信徒数は60万人となっています。しかし、キリスト教は1612年に禁止され厳しい迫害を受けました。その後、外国人宣教師が再び自由に入国できるようになったのは1859年以降です。

現在のカトリック (日本)

司祭	約1,800人 (内日本人 約950人)
修道女	約7,400人
修道士	約450人
信徒	約430,000人
教会	約1,000
修道会	男子 47・女子 93
大学	13 短大 29 高校 112
中学	93 小学校 55 幼稚園 586



＜聖書の原文と翻訳＞

A. 聖書の原文

旧約・新約を問わず、聖書各書の原本は現存していません。それ故本来書かれた、あるいは伝えられたままの本文が、どのようなものであったかを推定する作業が古くから行われて来ました。そのための有効な手掛かりは、残存している多くの写本です。

1. 旧約聖書

旧約聖書は、一部アラム語で書かれた箇所を除いてヘブライ語で書かれています。

ヘブライ語が死語になってからは、正しい読み方を示す工夫がマソラ(伝承)学者によってなされ、字外音標付き校訂本文が作成されました。これが「マソラ本文」と称せられるもので、紀元2世紀頃から固定しはじめ、6～10世紀にかけて確立されたといわれ、校訂本の底本として使用されています。

また、この他に1947年にクムラン洞穴で発見された、前2世紀～後2世紀にさかのぼる「死海写本」も有名で、校訂や批評のために参照されています。

近年の完結した学問的校訂本として、キッテル＝カーレ編集の「ブリア・ヘブライカ」(7版1951)およびエルガー＝ルドルフ編集「ビブリア・ヘブライカ・シュトゥットガルテンシア」(1967-77)があります。

2. 新約聖書

バチカン写本、シナイ写本、アレクサンドリア写本、エフラエム写本、ベザ写本等紀元2世紀から10世紀にかけてのギリシア語写本が多数残されています。特にバビルス写本は、断片的ですが3～4世紀のものが多く、最古の写本は125年と推定されています。

近年の校訂本ウェストコット＝ホート版(1881)、ネストレ版(1898)などの底本として用いられているのは＜大文字写本＞と呼ばれ、中でも4世紀のシナイ写本およびヴァチカン写本が最も重視されています。



B. 聖書の翻訳

1. 古代語訳

聖書翻訳の試みは、古くからなされて来ました。最古の翻訳として知られているのは、紀元前3世紀から前2世紀にかけて、エジプトのアレクサンドリアでなされたコイネー・ギリシア語訳です。これは、伝説に基づいて「七十人訳聖書」と呼ばれ、キリスト教教父に大きな影響を及ぼしました。

その他、アラム語訳「タルグム」、シリア語「ペシタ」が知られ、4世紀以降はコプト語訳、ゴート語訳、アルメニア語訳、エチオピア語訳、古スラブ語訳等様々な言語に訳され、多数の写本が残されています。

2. ウルガタ訳

ラテン語訳は、2～3世紀頃から現れ、北アフリカ、イタリア、スペイン等へ広まりましたが、異本による混乱が生じ、教皇ダマスス一世(在位366～384)は、ヒエロニムスに改訂を命じました。

彼は、20年の歳月をかけて404年頃に、今日「ウルガタ(一般)訳」と呼ばれるラテン語聖書を完成させました。「ウルガタ訳」は中世に西方教会に普及し、各国語訳の底本ともなり、1546年トレント公会議ではローマ・カトリック教会公認聖書と定められました。

3. 近代各国語訳

15, 16世紀に人文主義的古典研究が盛んになり、ヘブライおよびギリシア原典に基づく聖書訳が主張され、1516年、エラスムスは、ギリシア原典からの新約聖書ラテン語訳*を刊行しました。

このような背景と宗教改革の精神に促されて、「ルター訳聖書」(新約1522, 完訳1534)、「ティンダル訳新約聖書」(1624)をはじめ、オランダ、デンマーク、スウェーデン等近代語聖書翻訳が活発に行われるようになりました。

特にイギリスでは、16世紀の間にプロテスタント系の「カバデル訳聖書」(1535)、「大聖書」*(1539)、「ジュネーブ聖書」*(1560)やカトリック系の「リームズ・ダウィー聖書」*(新約1582, 完訳1610)が相次いで出版されました。

そして、これらの英訳聖書を土台として、その金字塔とも言えるジェームズ一世の命による「欽定訳聖書」が1611年に完成しました。これはシェークスピアの英語と並び近代英語の性格を決定したと評され、英米文化に大きな影響をもたらしました。その後も改訂が繰り返され、「改訂標準訳聖書」(新約1946, 完訳1957)として現代に至っています。

* : 本学所蔵本



C. 和訳聖書

1. キリシタン時代

聖書の翻訳は、いつでも福音の宣教と結びついていました。日本にキリスト教が初めて伝えられたのは、1549(天文18)年フランシスコ・ザビエル(Francisco Xavier)によってですが、その前年にはゴアにおいて、彼の指導のもとに、日本人青年ヤジロウの手になるマタイ福音書の抄訳(注解的な私的ノート)が作成されたと伝えられています。

日本布教が始まり、聖書の一部を含む公教要理、典礼書、祈禱書等の翻訳が行われ、その幾つかは現在に伝えられていますが、聖書そのものは残念ながら残されておりません。

しかし、日本における最初の四福音書の翻訳がフェルナンデス(Juan Fernandez)によって、1563(永禄6)年以前になされ、火災によって焼失したことをフロイス(Luis Frois)が「日本史」*に記録しています。

また、キリシタン訳新約聖書の面影を伝える資料として、バレット写本*がヴァチカン図書館に残されています。1590(天正18)年に来日したバレット(Manoel Barreto)が、翌年日本で作られていたキリシタン物語や和訳聖書、聖人伝をローマ字筆写したもので、その中には四福音書の3分の1、福音書の半分が含まれています。

2. 鎖国時代

禁教鎖国下においても、日本伝道の試みは止むことが無く、また蘭学者間に中国イエズス会士の著作が伝えられています。中でも平戸藩主松浦静山は、イギリスの聖書学者ヘンリー(Mathew Henry)の「旧新約聖書注解」蘭訳本を入手し、その翻訳を試みています。

更に、渡辺華山ら尚齒会は、ロンドン宣教会のモリソン(Robert Morrison)漢訳の旧約聖書を閲読、小関三英がキリスト伝の翻訳に着手していたところ、いわゆる蕃社の獄が起こり自刃するという事件に発展しました。

一方、来日できない宣教師達は、国外で翻訳に取り組みました。モリソンの「神天聖書」(漢訳聖書)に接したギュツラフ(Karl Gutzlaff)は、日本伝道を志し、1836年(天正7)尾張漂流民らと「約翰福音之伝」*、「約翰上中下書」*を和訳、シンガポールで翌年出版しました。

続いて、1846(弘化3)年那覇に上陸したベッテルハイム(Bernard J. Bettelheim)は、新約の翻訳に努め、1855年(安政5)香港で片仮名本「路加伝福音書」*、「約翰伝福音書」*、「聖差言行伝」*、「保羅寄羅馬人書」*を、1858年(安政2)には漢和对訳「路加伝福音書」*を出版。他は未刊に終わりましたが、馬太伝*と馬可伝*の稿本が現在英国聖書教会文庫に残されています。

*: 本学所蔵本

3. 明治訳

1859(安政6)年7月、安政条約発効により来日した宣教師たちは早速聖書訳訳に取り組み、アメリカ監督教会のウィリアムズ(Channing M. Williams)は、三要文ほかマタイ福音書を1861年までに訳したとされていますが、残念ながら現存していません。

同じ1861(文久1)年、ヘボン(James Curtis Hepburn)はブラウン(Samuel R. Brown)と協力して、漢訳本をもとにマルコ、ヨハネ両福音書、創世紀、出エジプト記を和訳、続いて1863年にはマタイ福音書にも着手しました。1872(明治5)年に「馬可伝福音書」、「約翰伝福音書」*を、続いて「馬太伝福音書」、「路加伝福音書」*を木版で出版しています。

また、ゴープル(Jonathan Goble)は、1871(明治4)年「摩太福音書」*を木版で出版しました。これは、国内で印刷された最初の和訳聖書であるばかりでなく、文語体のヘボン訳に対し俗語体を用いていることが注目されます。

1873(明治6)年、太政官布告により切支丹禁制が撤廃されるに及んで、公的な聖書翻訳が急務であるとの機運が高まり、在日宣教師会議は共同訳を決議し、各派より新訳聖書翻訳委員を選び翻訳委員社中が発足しました。

委員：ブラウン(改革長老派)、ヘボン(長老派)、グリーン(会衆派)

協力者：奥野昌綱、松山高吉、高橋五郎他

[翻訳社中訳]

1874(明治7)年から翻訳を開始し、「神」・「洗礼」など神学・典例用語で難航しながらも、1880(明治13)年までに木版17冊の新訳聖書*を完成しました。同年、完訳記念として5号活字版「引照新訳全書」*の出版に引き続き、平仮名版、ローマ字版、漢訳訓点本*など各種の新訳聖書が米国、大英国、北英国の3聖書会から刊行されました。

また、旧訳聖書に関しては、日本人委員(小崎弘道、松山高吉、植村正久等)も参加し、東京聖書翻訳委員会が組織され、1888(明治21)年に文語訳*を完成させています。ここに新旧約聖書が揃い、「明治元訳」と称され、近代思想・文化・文学に大きな影響を与えました。

[カトリック訳]

日本カトリック教会は、再布教以来教理入門書等(「後婆通志与」、「旧新両約聖書伝」、「耶穌言行紀略」ほか)の刊行に努め聖書翻訳は中々進みませんでした。36年を経て最初の聖書が東京横浜天主教会から出版されました。(高橋五郎訳「聖福音書」* 上下巻 1895- 97)

その後 1910(明治43)年、ラゲ(Emile Raguet)訳「我主イエズス・キリストの新約聖書」*が、私費と有志の献金により鹿児島公教会から刊行され、名訳としての評判も高く広く用いられるようになります。

*：本学所蔵本

4. 大正改訳と個人訳

明治元訳が完成後も改訂の必要を提唱する声が高まり、改訳委員会のもとに、1917(大正6)年、大正改訳「新約聖書」が完成しました。この改訳は、原文の措辞に忠実に、日本文として平易でかつ学問的に細心の注意が払われ、1954(昭和29)年、口語訳ができるまでプロテスタント諸教会で広く用いられ、愛読されてきました。

一方、聖書学の発達に伴い、左近義弼、湯浅半月、永井直治らの個人訳聖書も出現し、内村鑑三は、「聖書の日本化の最初の試み」と評しています。

5. 口語訳

全ての人に理解されるために口語訳聖書がのぞまれることは、最初の和訳であるギュツラフやゴープルらの実践したところでもありましたが、戦後の国語改革の進展とともに口語訳の要望が急速に高まりました。

こうした情勢にいち早く応じたのは、カトリック・サレジオ会のバルバロ(Federico Barbaro)で、1950(昭和25)年以来四福音書分冊を刊行し、「新約聖書」、ついで1964年には「旧新約聖書」*を完成させました。これはまた、カトリックとして最初の旧約の完訳にもあたります。

一方プロテスタントでも、「口語訳新約聖書」(刊行新聞社 1952年)を初めとして、日本聖書教会も文語訳から口語訳翻訳への方針に切り換え、1955(昭和30)年、旧新約を合わせた「聖書」を完成させています。

6. 共同訳

第二次世界対戦後の聖書学の発展の一方、1962年、第二ヴァチカン公会議が召集され、1964年、「教会憲章」、「エキュメニズムに関する教令」の公布と、カトリックとプロテスタントが教理的相違を越えて協同の動きが起こったことは、画期的なものとして注目されます。

日本においても、共同訳聖書推進の動きが高まり、「聖書翻訳のための標準原則」(1964年)に基づき、共同訳聖書実行委員会が組織され、1978年、「新約聖書共同訳」が完成、1987年にはついに「聖書新共同訳」*として全巻が完成しました。

この聖書は、最新の聖書学の成果という学術的意義だけでなく、従来の障壁を乗り越え、聖書という共通の<神の言葉>を持つに至ったという大きな意義を持ちます。まさに新時代の到来を告げる画期的な事業の成果と言えるでしょう。

*：本学所蔵本



7. おわりに

このように我々が今手にしている聖書も、その生い立ちを辿ってゆきますと、神の言葉を伝えるための多くの人々の熱意と辛苦の結晶であることがわかります。

訳語の変遷も、言語上の問題に留まらず、日本文化にキリスト教を根付かせるための格闘の痕跡として読み取ることもできます。

最後にヨハネ福音書第一章を例に、^{ことば}「言」、「神」の訳語の変遷を辿ってみましょう。

ギュツラフ訳 (1837)	ハジマリニ <u>カシコイモノ</u> ゴザル、コノカシコイモノ <u>ゴクラク</u> トモニゴザル、
ウィリアムズ訳 (1850)	ハジマリニ <u>カシコイモノ</u> ゴザル コノカシコイモノ <u>テンノツカサ</u> トモニゴザル
ベッテルハイム訳 (1855)	ハジマリニ <u>カシコイモノ</u> ヲテ、コノカシコイモノヤ <u>シヤウティト</u> トモニヲタン、
ヘボン訳 [写本] (1872) [刊本] [ローマ字本]	^{はじめ} 元始に道ハあり ^{ども} 道ハ <u>神</u> と偕にありあり ^{はじめ} 元始に ^{ことば} 言霊あり ^{ことば} 言霊ハ <u>神</u> とともにあり Hajime ni <u>Kotoba</u> ari, Kotoba wa <u>Kami</u> to tomoni ari,
翻訳委員社中訳 (1878)	太初に <u>ことば</u> あり。ことばは <u>神</u> とともにあり、
高橋五郎訳 (1895)	^{げんし} 元始に ^{ことば} 言霊ありき ^{ことば} 言霊は ^{ども} 神と偕にありき、
ラゲ訳 (1910)	^{はじめ} 元始に ^{みことば} 御言あり ^{みことば} 御言 <u>神</u> の御許に在、 ^{おんもと} ^{あり}
新共同訳 (1987)	^{ことば} 初めに <u>言</u> があった。 <u>言</u> は ^{ことば} 神と共にあった。

[付記]

解説・解題にあたって、海老沢澤有道著「日本の聖書」(講談社 1989)、門脇清・大柴恒著「日本語聖書翻訳史」(新教出版社 1983)、「近代日本キリスト教文学全集 14 聖書集」(教文館 1982)、「新聖書大辞典」(キリスト新聞社 1971)、「日本キリスト教歴史大事典」(教文館 1988)ほかを参考にしました。

<聖書和訳略史>

1548(天文17)	・ヤジロウ マタイ福音書抄訳
1549(天文18)	<フランシスコ・ザビエル 日本布教開始>
1582(天正10)	<イエズス会日本準管区設立>
1587(天正15)	<伴天連追放令>
1591(天正19)	・バレット 和訳聖書(部分訳)*筆写
1597(慶長 2)	<二十六聖人殉教>
1837(天保 8)	・ギュツラフ 「約翰福音之伝」*、「約翰上中下書」*
1853(嘉永 6)	<ベリー浦賀に来航>
1855(安政 2)	・ベッテルハイム 「路加伝福音書」*、「約翰伝福音書」*、 「聖差言行伝」* 「保羅寄羅馬人書」*
1858(安政 5)頃	漢和对訳「路加伝福音書」*
1863(文久 3)頃	・S. R. ブラウン 「馬太伝福音書」*
1871(明治 4)	・ゴープル 「摩太伝福音書」*
1872(明治 5)	・ヘボン 「新約聖書馬可伝」、「新約聖書路加伝」*、 「新約聖書約翰伝」*
1873(明治 6)	<キリシタン禁制高札撤去>
1879(明治12)	・N. ブラウン 「志無也久世無志与」
1880(明治13)	・翻訳委員社中 「新約聖書」*
1887(明治20)	・東京翻訳委員会訳 「旧約聖書」*
1891(明治24)	<教育と宗教の衝突事件>、<内村鑑三不敬事件>
1894(明治27)	・米国バプテスト 「新約全書」
1895(明治28)	・高橋五郎 「聖福音書 上」*、「同 下」*(1897)
1901(明治34)	・日本正教会 「我主イエス ハリストス ノ 新約」
1906(明治39)	・バプテスト教会 「引照新約全書」
1907(明治40)	<神言会来日>
1910(明治43)	・ラゲ 「我主イエスキリストの新約聖書」*
1917(大正 6)	・大正改訳「新約聖書」
1955(昭和30)	・口語訳「聖書」
1962(昭和37)	<第2ヴァチカン公会議開幕> (~1965)
1964(昭和39)	・バルバロ 「旧新約聖書」*
1987(昭和63)	・「聖書 新共同訳」*

*：本学所蔵本

◆◆レファレンス事情あれやこれや◆◆

さあ、忙しい季節がやって来ました。この時期は卒論のための文献を求める皆さんでカウンターは混雑します。今ごろやってるようじゃ本当は遅いだけだねえ、という言葉も皆さんの必死の形相にかき消され、こちらも夢中で動き回ってしまう恐ろしい季節です。

そこで今回は、レファレンス・カウンター利用の際に注意して欲しいことをいくつか挙げてみたいと思います。

★文献の複写を申し込む場合★

【1】書誌事項を正確に詳しく。

書誌事項とは、論文のタイトル、著者、ページ数、掲載雑誌のタイトル、出版年、巻号等のことです。参考文献一覧では、雑誌のタイトルなどが略語で書かれていることがよくあります。まる写しするのではなく、正確なタイトルを記入して下さい。参考にした資料を持って来て下さればこちらでも確認できて助かります。それから、申し込んだ文献の書誌事項は必ず控えておいて下さい。届いた複写物からでは、雑誌のタイトルや巻号がわからないことがよくありますので、あとで自分の論文に記載する時に困ることになりますよ。

【2】時間がかかります。

受け付けた申込みはすぐに処理しても、依頼先の大学の処理が遅れることもあります。申込みの日から文献が届くまでには早くても5、6日、遅いと1ヵ月程かかります。海外への依頼は1～3ヵ月はみて下さい。

【3】お金がかかります。

複写料金は依頼先によって異なり、国立大学なら1枚35円、私立大学なら20～50円と様々です。それに加え、郵送料と支払いの手数料を申込み者に負担してもらっています。例えば、A大学に10枚の複写を依頼したとしますと、 $35 \times 10 + 175$ (送料)=525円の請求がA大からきます。支払い方法は銀行振込でという指定があれば、振り込む手数料が412円かかりますので、結局937円負担していただくことになります。また、海外に依頼した場合はほとんど小切手等で支払うので随分割高になります。ちなみに小切手の作成手数料は現在2,500円です。ただし、アメリカやカナダの出版物で20ページ以下の複写なら無料で送ってもらえるルートがありますのでご相談下さい。



★図書を他大学から借りる場合★

【1】時間とお金がかかります。

複写の場合と同じく時間がかかります。特に国内でどうしてもみつからず、海外に依頼することになると2～3ヵ月では届かないこともあります。また、往復の郵送料（簡易書留が多い）は申込み者負担です。



【2】図書館から持ち出せません。

利用期間はほぼ1～2週間です。カウンターの貸出しノートに記入し、図書館内で閲覧して下さい。破損したりすることのないよう、特に慎重に取り扱って下さい。

【3】結局手に入らないこともあります。

他大学の中で図書館を貸出してくれる大学はまだ少数です。またそれ以上に所蔵館をつきとめること自体難しいのが現状です。大学図書館間では、各大学の所蔵データを検索して即座に依頼できるNAC S I S - I L L というオンラインシステムが今年4月からスタートしました。しかし、所蔵情報の登録はまだまだ立ち遅れており、参加していない大学もあります。このシステムでめざす図書がみつけれない場合、持っていそうな大学に1件ずつFAXや電話や手紙で問い合わせをしなければならないので時間がかかりますし、あげくの果てにどうしてもみつからないときもあります。そんな時は、申し訳ないのですが、あきらめていただくこともありますのでご了承下さい。

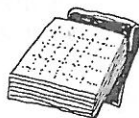
【4】公共図書館のことも忘れないで。

公共図書館にも是非行ってみて下さい。他大学から借りるより安上がりだし、なんといっても家に持ち帰ってじっくり読むことができます。それに、地元の公共図書館にある本を遠方の大学にわざわざ依頼するのはマナー違反といえるのです。

【5】学生用希望図書として購入してもらおう。

図書館に備えつける図書として適当と判断されれば、購入してもらうことができます。図書館に入ったら、必ず最初に申込み者が借りることができます。処理に要する時間は1ヵ月半くらいです。特に新刊書はこの制度を利用して下さい。

★他大学への紹介状を申し込む場合★



【1】資料を特定しないと発行できません。

どここの図書館にこれこれの資料があるので閲覧したい、という理由がないと紹介状は発行できません。「名大の図書館へ行きたいので紹介状をお願いします。」という人がよくいますが、これは困ります。名大に行けば何か良い資料があるにちがいないという気持はわかりますが、漫然と行っても結局たいした収穫にはなりません。まず、どの資料が見たいのか、ということをはっきりさせましょう。その資料がどの図書館にあるのかを調べるのは、カウンターでお手伝いします。

以上皆さんに知っておいていただきたい点を挙げてみました。この他わからないことがあれば、遠慮なく質問して下さい。あと一息、頑張れ南山生！

(参考係：藤田三保)

《資料紹介》

C D - R O M 紹 介

CD-ROMと言えば、オンライン検索と違い、いくらやっても妙だとか、たった直径12cmのくせして約600MBのデータが記録できるとかで、最近人気赤丸急上昇中です(オ-!)。

ところで、図書館でもCD-ROMが利用できることは知っていますか？(しらな~い) 図書館ではみなさんが図書館で購入したCD-ROMやフロッピー資料を利用するためのパソコンを2台設置しています。しかし、今一つ知名度がないのに加えて、事務室内に置いてあるという煩しさからほとんど利用されていません(くすん...)。そこで、図書館では今年を「CD-ROM利用元年」と勝手に銘打ち(おいおい...)、利用者用パソコンのうち1台を1Fフロアに出し、自由にCD-ROMを利用してもらうことにしました。

利用可能なCD-ROM(一部)

1	The Oxford English Dictionary	(CM/833/1)
2	Le Robert Electronique	(CM/850/1)
	それぞれが、英語・フランス語の権威ある辞典。共に冊子体(OEDは12巻、Robertは9巻)で刊行されたものをそれぞれ1枚のCD-ROMに収めたもの。 語源・同義語検索、年代・作者・作品限定、例文中の単語検索など多機能検索が可能。	
3	1987 Economic Censuses	(CM/USGP/1000/1987/v.1-1A~C, v.1-1D, v.2-2A, v.2-2B)
	1987年米国産業センサス。米国の経済・経営・商業・会計に関する基本データを収録し、Retail trade, Wholesale trade, Service industries, Manufacturesなどの項目に分かれている。米国経済の研究、他の諸国との比較研究には不可欠な基本資料。	
4	MLA International Bibliography	
	現代言語、関連文献、文学、フォークロアなどに関する文献情報で、複合言語、言語史、特殊言語関連の情報も収録している。地域的には欧米の他、アジア、アフリカ、ラテンアメリカもカバーしている。従来はDIALOGのオンライン検索を利用していたが、92年4月よりDIALOG上での使用ができなくなった。冊子体も所蔵しているが、それよりも検索方法が多種多様である。また収録データは約25万件、収録期間は1981年以降、年4回更新。	

現在利用できるCD-ROMがすべて外国製というのが、ちょっと...(ちよつとアレだよ!アレ!)という気がします。基本的な利用マニュアルについては日本語バージョンを用意してあります。幸いCD-ROM検索はオンライン検索と違い、いくら時間がかかっても妙なので、原文のマニュアルを読み読みやってみるのもいいかもしれません(バチバチ)。

図書館では、今後少しずつ利用できるCD-ROMを増やしていく計画ですが、それには、何はともかく、触ってみる。分からないことがあったら、何でもカウンターに聞いてみる、といったみなさんの積極的な態度が必要となってきます。そうでないと、「な~んだ、結局紙の資料だけあればいいんか...」ということになりかねません。

では、GEMMA同様、CD-ROMも御鼠真に...(ちゃんちゃん)!

(システム係：三谷 靖司)

ますます身近になる GEMMA — ああなんて便利

有価証券報告書が見たいけど、有価証券報告書総覧会社名一覧を見るのが面倒くさいあなた。勉強はめんどくさがってはいけないけれど、デュナミスをいつも愛読してくれるあなただけに、GEMMAでの有価証券の検索方法を教えましょう。

和タイトルのところに有価証券報告書といれて

GEMMA-----<目録検索>-----

ワード : _____

ワード間 : AND, OR, NOT, ()

和タイトル : 有価証券報告書総覧_____

著者 : _____

※データベースは

- 3.雑誌 4.和図書と和雑誌
8.和雑誌 を選択して下さい。

でも結果はこの通り

これはあまり良い方法とはいえませんね。

AQUARIUS - SEARCH MODE
00001 有価証券報告書総覧 .TITLE=KEY.
有価証券報告書総覧 2074 OCCURRENCES 533 DOCUMENTS
RESULTS (EXTENDED) 533 OCCURRENCES 533 DOCUMENTS

では次にワードや和タイトルのところに会社の正式名称をいれてみましょう。

GEMMA-----<目録検索>-----

ワード : _____

ワード間 : AND, OR, NOT, ()

和タイトル : 久光製薬株式会社_____

著者 : _____

このように必要な会社の有価証券報告書の検索ができました。

AQUARIUS - SEARCH MODE
00001 久光製薬株式会社 .TITLE=KEY.
久光製薬株式会社 5 OCCURRENCES 1 DOCUMENT
RESULTS (EXTENDED) 1 OCCURRENCE 1 DOCUMENT

さて、もっと簡単に検索出来る方法はないものかと思っている人もいるでしょう。
"和タイトル"のところに"株式会社"を入れることすら面倒くさい人もいるでしょう。
そんな都合のよいことを考えている人は"ワード"のところに会社名をいれてみましょう。

GEMMA-----<目録検索>-----

ワード : 久光製薬_____

ワード間 : AND, OR, NOT, ()

和タイトル : _____

著者 : _____

これも結果は上と同じ。必要な会社の有価証券報告書が検索できました。
あとは普段と同じように出納票画面をカウンターに持って来れば利用できます。

いつもデュナミスを読んでいるあなたは、GEMMAの使い方知らない訳ないですね。
これでまたGEMMAの利用方法をひとつ覚えて、おおいに満足!!
このまま情報満載のデュナミスの続きをどうぞ。

(5)

《ライブライアンス・ハート》



閲覧カウンターから見た困り事



夏休みはいかがでしたか・・・！

故郷に帰った方、旅行に行った方と様々にエンジョイされたことと思います。また講義講義の毎日の始まりですね。

卒論、後期試験に向けて図書館の利用者が多くなると思います。図書館も皆さんのお役に立てるようお待ちしております。

図書館として困ることが2、3あります。それは・・・

①雑談 ②飲食 ③④がなくて ⑤に席取り といったように・・・！

他の人の事は目に入らぬ自己中心、閲覧席は喫茶店の如し、たとえば⑤の席取りについていえば机の上に荷物は置きっぱなし、本人はいなく、他の人が利用したくても利用出来ず困っているありさま・・・！

館員が見回りに行き、視線が合えばしらんぷり・・・！ 注意をしながらとても寂しい気持ちになります。マナーを守りながら楽しく図書館を利用して頂きたいと思います。

(閲覧係・安田 はる子)



「スーパー・マーケット」のおじさん？



逐次刊行物係—これが私の所属する部署の名称である。

簡単に言えば「雑誌係」ということになるが、なかなか複雑で日刊、週刊、月刊、旬刊、月2回刊、隔月刊、季刊、年2回刊、年刊、等々・・・と、出版間隔がさまざまで、いわゆる雑誌、紀要、新聞、白書、年鑑、有価証券報告書、統計資料、政府刊行物、マイクロフィルム、マイクロフィッシュと出版形態も多種多様である。

これらが、毎日休むことなく、郵便、宅配便、出入書店等によって図書館に届けられるのである。もちろん、日本全国は言うにおよばず全世界から送られてくるのである。そのタイトル数は、約1万3千種類にも及ぶ。

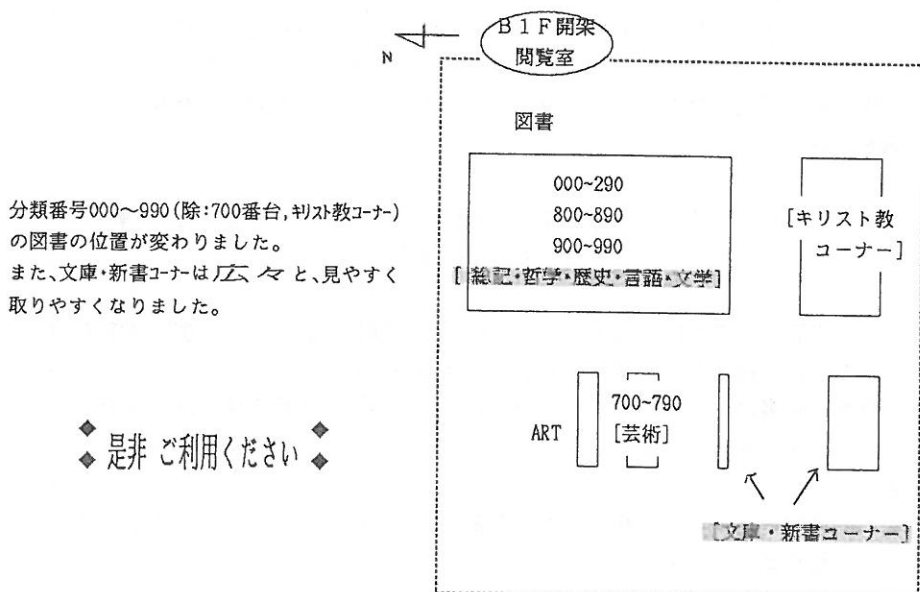
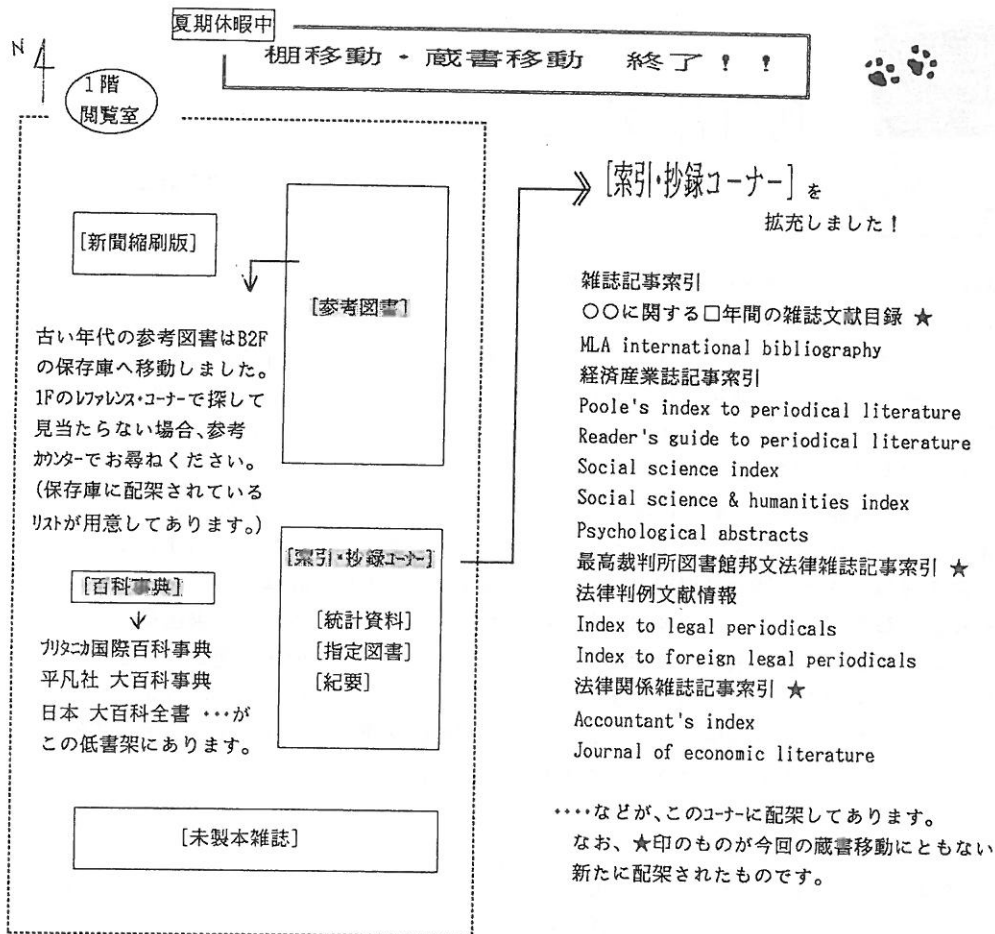
それを利用者である学生諸君、教職員、一般研究者等のために分類して館内に配架するのである。

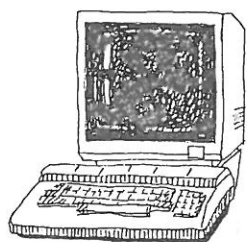
こうして係の仕事を振り返ってみると、まるでスーパー・マーケットの仕入係のようなのである。新鮮な品物（逐次刊行物）を逸速くお客様のお手元に届ける。それも整然と分類し、かつ奇麗に（出版順に）並べるのである。図書館の品物（逐次刊行物）は、売れることもなく、捨てることも出来ないの、どんどん増える。それらを、古いものから決まった単位にまとめて製本し、分類して書架に配架するのである。

こうして利用者の要望があればいつでも利用できるような体制にしておくのである。

我々裏方は利用者と直接接することはめったにないが、たまに開館延長の当番になってカウンターに座り、レポートのテーマについて相談を受け、GEMMAの検索の結果、それらしい資料があると、そしてそれが製本雑誌であると、日頃の労働が報われる気分になるものである。

(逐次刊行物係・鈴木高康)





利用者の皆さんへ・・・

－システム検討のお知らせ－

昭和63年5月にスタートした本図書館の検索システム＜GEMMA＞は、年を追って利用者が増し、貸出し冊数もほぼ二倍増に至るなど、すぐれた成果をあげてきましたが、近ごろでは時間帯によっては応答が著しく遅れるなどの欠陥が目につくようになりました。その原因は現在使用中のホストコンピュータ（IBM9377機）の処理能力が限界に近づいたことにあります。またGEMMAの使いづらさについてもその改善を求める声が寄せられています。

そこで、図書館では、これらの諸問題を大巾に改善するために、最新のコンピュータ技術を導入した新しい図書館システムを作ろうとしています。この問題に関連してすでに検討を重ねてきた次期計算機検討委員会（平成4年1月来）、計算機メインフレーム機種検討委員会（同5月来）の検討結果を踏まえて、この7月、新たに図書館長を長とする次期図書館システム検討委員会を発足させ、コンピュータ・情報処理を専門とする研究者を含む学内の知恵を集めて、すぐれた図書館システムを目指すことにしました。

しかし、なおしばらくは現行システムによって図書館を運営しなければならず、不便をおかけしますが、お許しくださるようお願いいたします。

ちょっと一言・・・



GEMMAも学内に徐々に浸透し、いつもGEMMAのまわりは利用者で溢れかえっているという嬉しい悲鳴をあげる図書館ですが、皆さんが利用をされていてGEMMAが動かない、遅い、と思ったことが多少なりともあったと思います。

そこで限られた環境のなかで、より少しでも早くGEMMAを動かすために次のことに気を付けてください。

- ▽ GEMMAを使う場合、自分が探してる資料、目的をはっきりさせ、 ▼
- ▲ それにあったデータベースを使い検索を行なう。 △

たとえば日本語の図書を探す場合、＜データベース選択＞画面では ~~図書データベース~~ を使うよりも ~~図書データベース~~ を使った方が早く画面がかわります。

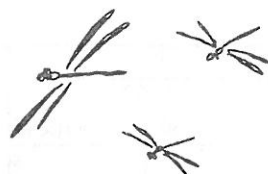
また、見たい図書のタイトルが確実にわかっている場合、＜目録検索＞画面で、~~図書データベース~~ より ~~図書データベース~~ で検索したほうがリストも少なく確実に図書の詳細がわかります。

このように目的を持って、それにあう検索を行えばGEMMAも今までよりは少しでも早く動くと思います。

《伝言板》



この秋は・・・図書館へ



御存知ですか???

5月11日より、月・火・木・金曜日、図書館は夜8時まで開館しています。

今まで6時半までで追い出されてしまった あ・な・た!

ゆっくり、落ち着いて勉強ができますよ。

GEMMAの使い方が
わからない人

レポートや卒論のための
文献収集方法を
知りたい人



10月～12月の各水曜日に

手ほどきします。

奮って参加して下さい。

◎詳細は参考係まで。

■ 今秋の図書館特別企画 ■

— 地蔵写真展 —

と き：10月26日(月)～11月7日(土)

と ころ：図書館1階 ブラウジングコーナー

内 容：本学非常勤講師 シュリーター先生作品

本学所蔵

— キリスト教関係資料展 —

と き：10月31日(土)～11月7日(土)

と ころ：図書館1階 特設会場

内 容：本学収集 カトリック関係資料・聖書 他

*上記いずれの企画とも11月3日は開場します。

ライブラリーカレンダー

1992.10 ~ 1992.12

10月					11月					12月				
9:00	3:30	8:00			9:00	3:30	8:00			9:00	3:30	8:00		
	6:30		G	文書		6:30		G	文書		6:30		G	文書
1(木)				★	1(日)					1(火)				
2(金)					2(月)		4:30		★	2(水)			★	
3(土)				★	3(火)		文化の日			3(木)				★
4(日)					4(水)		4:30	★		4(金)				
5(月)				★	5(木)				★	5(土)				★
6(火)					6(金)					6(日)				
7(水)			★		7(土)				★	7(月)				★
8(木)				★	8(日)					8(火)				
9(金)					9(月)				★	9(水)			★	
10(土)		体育の日			10(火)					10(木)				★
11(日)					11(水)				★	11(金)				
12(月)				★	12(木)				★	12(土)				★
13(火)					13(金)					13(日)				
14(水)			★		14(土)				★	14(月)				★
15(木)				★	15(日)					15(火)				
16(金)					16(月)				★	16(水)			★	
17(土)				★	17(火)					17(木)				★
18(日)					18(水)			★		18(金)				
19(月)				★	19(木)				★	19(土)				★
20(火)					20(金)					20(日)				
21(水)			★		21(土)				★	21(月)				★
22(木)				★	22(日)					22(火)		4:00		
23(金)					23(月)		勤労感謝の日			23(水)		天皇誕生日		
24(土)				★	24(火)					24(木)				
25(日)					25(水)			★		25(金)				
26(月)				★	26(木)				★	26(土)		12:00		★
27(火)					27(金)					27(日)				
28(水)			★		28(土)				★	28(月)				
29(木)				★	29(日)					29(火)				
30(金)					30(月)				★	30(水)				
31(土)				★						31(木)				
開館時間 G: GEMMA講習会 文: 文献探索講習会 書: 3・4年次生書庫入庫日 (月・木 pm1:00~4:30, 土 pm9:00~11:30)														

《編集後記》

今回は、「キリスト教関係資料展」に因み、特集を組んでみました。

10月末からの展示会もご期待下さい。

(H.G, N.I)

(タトデザイン: 平松富美)

南山大学図書館報 デュナミス No.15

1992.10.1.発行

南山大学図書館 広報委員会

編集委員: 後藤、伊藤(法)

〒466 名古屋市昭和区山里町18

Tel. 052(832)3707

Fax (G3) 052(833)6986